

# まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月11日(金) 午後6時00分～午後8時00分
場 所	福祉センター別館ふれあいホール
出席者等	○市民参加者：男性29名 女性10名 合計39名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会 【総務部長 司会進行】

### 2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんばんは。まちづくり懇談会は、今月の4日から開催させていただきました、市内11カ所、今日が最終日というわけですが、皆様方にはご出席いただきましてありがとうございます。

また、日頃からご参会の皆様におかれましては、市政の推進や、ご支援・ご協力をいただいていることにつきましても、感謝申し上げます次第でございます。

昨今の状況でございますが、新型コロナウイルスの感染が世界的に流行しており、5万人を超え6万人に上ろうとする状況に加えて、国内におきましても、昨日は1名の方がお亡くなりになるという事態に至っております。大変懸念がされるわけではありますが、過度な心配は不要だと思いますが、この予防にはしっかりと、うがいだとか、手洗いだとか、人ごみにおいてはマスクの着用など、徹底していく必要があるところです。

また、例年になく積雪の状態が非常に少なく、芦別においても、空知においても少ない状態が続いております。今後におきましては、特に営農において大きな影響があるのではないかと考えており、こういったことにつきましては、しっかりと関係する機関と連携をさせていただき、市としての対応はしっかりと執ってまいりたいと考えております。

また、不通となっております、芦別富良野間のJR根室線ではありますが、野花南の架道橋の復旧を終えました。当初は2月末までかかるということでしたが、5日から改修を終えて通常通り運転が再開され、安堵しているところです。

加えて、道新の空知版にも掲載されておりましたが、芦別にこれまで11年連続で合宿をしていただいておりますJTマーベラスであります。見事Vリーグで優勝され、9年ぶり2度目の優勝ということでございます。心から市民を代表して祝電、メッセージを送らせていただきましたし、また、今年の夏におきましても合宿を予定されている場でもございまして、優勝凱旋をぜひ、皆さんとともに歓迎をしてまいりたいなと思っている次第でございます。

さて、今ほど司会のほうからご案内させていただきましたが、今回のテーマは大きく2つございます。詳細については担当課長から後ほどご説明申し上げますけれども、概括的に私から申し上げさせていただきますが、一つには庁舎の関係があります。この庁舎も築後50年が経過しており、老朽化の進み具合も激しい、加えて耐震性が整ってございませんので、震度6強においては倒壊の恐れがあるというデータが出されております。私共は、一昨年に胆振東部地震で震度4を経験しております。こういったことを含めて将来に渡って、市民の皆さんへのサービスというものをしっかりと、機能を保全していくことは、私共の使命だと思っています。防災拠点的にも、庁舎機能はしっかりと持たなくてはならないと思っているわけです。

いずれにいたしましても、将来に渡って、こういった方策をとっていくということも踏まえて、様々な検討をいたしました。やはり建て替えが最善の策ではないかと捉えておりますが、多額な費用を要するわけですので、国の制度におきましては、一定の時限がありますので、そういった制度の活用も含め合わせながら、市の本体財政もありますので、しっかりと見極めながら、総合的な観点から検討をしていかなければいけないと、思っている次第でございます。

もう一つは、病院の関係でございます。人口の減少さらには常勤医師の不在等で、非常に病院経営が大変な状況にあるわけですが、先般、一年間かけまして、病院の将来に向けてのあり方について、検討いただきまして、検討委員会からの答申を、先月の25日にいただいたわけでございます。内容的には詳細は後ほど申しますけれど、病床数のあり方ですとか、経営形態、さらには診療体制のあり方など様々な観点から、専門的なお立場で、そういった内容の答申をいただいております。

昨年の9月でありますけど、厚生労働省から国内においては424の病院、道内においては54の病院が、再編統合の対象にするというということで、芦別市も市立病院が、この対象になったところでございます。これは、診療の実績が少ないという一つのピンポイント的な要素を含み合わせながら、そういった形の中にされたわけですが、そういった現状をお伝えさせていただきながら、市内においては唯一の公立病院でございます。公立病院に対する皆様方の期待という大きいものがあると思っております。逆に私共も、しっかりと公立病院としての責務を果たしていくことも、その立場にあると思っております。医療資源をしっかりと最大限生かしていただいて、そして、近隣の病院等とも含めて、連携をさせていただくということも必要になると思っておりますけれど、そういったことを通じて、市民の皆様方の健康、命をしっかりと守っていく、安全安心をしっかりと確保する、これは我々行政のスキームだと思っておりますけど、そういった視点で、お考えなども皆様方から賜りながら、方向性を見出していきたいと思っております。

いずれにしましても、皆さんから支持がなければ病院の経営はできないわけですし、病院の存続は難しいと思っております。様々な角度からご意見を賜りたいと思っております。

ぜひ、有意義な懇談の場となりますようにご協力をお願い申し上げます。開会のあいさつとさせていただきます。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
  - ・北森カレッジの本市での実習について
  - ・新型コロナウイルスの対策等について

### 4 意見交換

#### ○市民

23ページに事業費の内訳が出ていますが、一番下の表に、市負担額の30億4千万の中に、庁舎建設基金が入るという理解でよろしいですか。

#### ●危機対策課長

真ん中の表の財源の内訳を見てほしいんですが、35億円のうち、26億1千万円が、地方債と呼ばれる借入金、残りの8億9千万円が庁舎建設基金となります。その下の最終的な負担額の内訳になりますが、30億4千万円に、この一部が入るということになり

ます。比較の仕方が上と下では違うので、財源の内訳で見てもらうのが一番わかりやすいのかなと思います。

○市民

一番下の表が、市民が負担する額ですよ。その中に基金は全部入るという考えでよろしいですか。

●危機対策課長

入ることになります。

○市民

そうすると、基金というのはもうすでに原資があるのですか。それともこれから集めるのですか。

●危機対策課長

今のところ770万円あります。これから、資料にも書いてありますが、ふるさと納税の部分だとかそういう部分も入れていくという形になります。

○市民

わかりました。市が返済する部分と基金とは性格が違うと思うんですけど、これから返すなり集めるなりといった金額が30億4千万円ということによろしいですか。

●危機対策課長

はい。

○市民

制度を運用されるということですが、公共施設等適正管理推進事業債（市町村役場機能緊急保全事業）、これは、審査を受けて適用されるということですか。

●危機対策課長

起債の借入れの時には、職員数に応じていくら借入れできるのかというのが決まります。極端な話をすると、職員数を多く見積もって、大きな庁舎を立てないように実際に見合った職員数にあった額というのが基本としてあります。この中には記載されておりませんが、一人当たりの基準（面積）が決まっており、それに基づいて起債を借入れることになっておりまして、資料の16ページに記載している4,700㎡から5,000㎡であれば、借入れ出来る範囲内だということになっております。

○市民

素案が今出ていますが、そのうち実施計画だとか実施設計だとかこういった文章面も審査されるんですか。

●危機対策課長

借入れするときの審査ということですか。

○市民

そうです。

●危機対策課長

基本構想、基本計画、借入するときには実施設計という形になりますけど、こういうのを見てどういった庁舎を立てるのか審査されます。

○市民

パブリックコメントもされると思いますが、そういったことも含めて審査されるという理解でよろしいですか。

●危機対策課長

はい。

○市民

今の質問の方の話は、私は把握ができないけれど、35億円で新庁舎が建つという原

案については、私は賛成です。華美にしないと書いていましたが、どんどん華美にしていのではないかと。道内にはこんな素晴らしい庁舎は無いぞという庁舎を建てていただきたい。ただ、借金が残るところがちょっと。25年かかるということではないですか。25年となると、うちの孫が借金を払っていくことになる。そういうことを考えると心配だなと思うけど、これを少しでも金のかからない方法があるのではないかと。例えば、商工会議所は建て替えをしなければならないと思う。10億円から数10億円出してもいいという噂を聞いておりますので、そういうのを出せるのなら出して、合併してやったらどうかということや、建設業協会も建物が危ないのではないかと。そういうところも一緒に。

北見のように、デパートに市庁舎を入れるというのも見てきましたが、市民が楽しく集まれる場所にしてもらえれば、商工会議所、建設業協会、青年会議所を市役所に入れ家賃を取る。なるべくお金を集められるものは集めて、少しでも孫の借金を少なくするといったようにしたらどうですか。

商工会議所が、台風で壁が剥がれたときから冗談交じりに私が市役所に話していたものですから、ぜひそうしてほしいのと、議会の施設がありますが、絶対に市庁舎の中に作らなければならないのですかね。もしもそうだったら、議員の手当、報酬の20%を、市庁舎を建てる資金として提供せと、たった12名しかいないので大した額ではないけれど、みんなで建てるんだというそういう意識を、18日に市議会と市民との意見交換会があると聞いていますので、ぜひ参加して、半分くらい出してはどうかと言ってみたいなと思っています。みんなで新しい庁舎を作る。なるべく階段の無いバリアフリーのいい庁舎が作れたらなと。なるべく経費をみんなから貰って建てるようにしてはどうでしょうか。

それから病院なんですが、病院も今のままでしたら御の字です。私は毎月1回、内科に行き、たくさん薬をもらってます。整形外科で砂川の先生に診てもらってます。砂川に行かないのに砂川の先生に診てもらっている。すごく喜んでます。今の体制でしたら全然文句がないです。むしろ、先生が出張してくるということはお金がかかるんですか。そうなんです。そういうことを考えると、病院のスタッフも親切で、私だけに親切じゃないんですよ。お年寄りにもみんな優しく、来る先生もすごく丁寧だし。私7年間新十津川の病院に通ってたんですけど、もう車では通えなくなったので、市立病院に10月から通っているけど、看護師さんやお医者さんがすごく優しく、いいしつづをされているというか、プロの気持ちになって燃えているなと感じています。

今のところ1億円で間に合っているんですよ。やっていけるんですよ。

●市長

今のところはそのように聞いております。

○市民

そのようでしたらすごく喜んでおりますので、ぜひよろしくお願ひします。

次に、コロナウイルスのことですが、対岸の火事ではなくなりましたね。見たらすぐ保健所に送ろうとしていますね。市に保健所がないから仕方がないが、30何度の熱が出たら、まず市立病院行くんですよ。それからどこかに送るんですよ。救急車を運転する人の防護服について、タクシ-の運転手にうつっているんだから運転する人にうつることありますよね。そういった対応、対策は市として考えているのかどうか。

それから林業の関係です。今日の道新に生徒がいなくて出ていましたよね。40名中28名と新聞に載っていました。その生徒が芦別に来て20日間合宿するんですか。芦別に泊まるんでしょうか。

●危機対策課長

庁舎に関しての部分ですが、商工会議所など役所に入れてはどうかということでしたが、これにつきましては、資料の7ページの下のほうになります。他の公共施設や民間施設と書かさせていただいております。民間施設というのは今お話のあった部分ですので、これについても検討するというようにしております。それから、議会の施設についてお話をいただきました。今この中で考えているのは、資料の11ページの(7)になりますが、会議室等の兼用機能ということで、この中に、議事堂は今まで使われていないときには空いているスペースになっていましたが、フラットなものにして議場として使っていないときには多目的に利用できるようなことを考えております。

●黒田病院事務課長

今ほどお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございます。皆さんが、そういう感じで受け取ってくださっている方もいらっしゃいますけれど、そうでない方もいらっしゃいますので、それについてはこれからも努力をしていきたいと考えています。

1点いただいた中で、コロナウイルスの関係がありました。市立病院にという話がありました。もし、そういった症状のある方で、渡航歴とここで書いていますが、もう渡航歴といってられなくなったかなということもありますので、もし不安な方がいらっしゃいましたら、来る前に一度お電話をいただきたいと思います。もし本当にそうであった場合に、以前サーズが問題になった時に、マニュアルを作っているんですけど、ほかの患者さんと同じ動線にいるのはやはりまずいだろうということがあって、事前にご連絡いただくと、救急の入り口から入っていただいて、ほかの患者さんに会わないようにという感じになっていますから、そういったことがあった場合には、本当は保健所に連絡していただいて指示を仰ぐということがあったんですけど、そうでなくて、病院にといった場合についてですけど、もし心配であれば事前にお電話をいただいて、その時はもう防護服とかスタッフのほうが用意するような感じになるとと思いますので、そういったことをご協力いただければと思います。

●佐々木主幹

北森カレッジの学生が来た時に宿泊するのかどうかというご質問だったんですけど、実習に関しましては、1日で行うもの、2日間で行うもの、3日間というか細かな内容になっているんですけど、その間にすべて宿泊ということではなくて、宿泊する場合がありますし、例えば2日間来ても2日間日帰りで帰るといったことも、実習の内容によって北海道のほうで検討されているようで、宿泊は数日間になると思います。この宿泊に関しましては、宿泊交流センターを利用させていただくということで、今調整をしております。

○市民

1日でも泊まってくれたらありがたいなと思ったところです。

●総務部長

今ほどコロナウイルスの関係で、市としての対策ということでご質問をいただいたところですが、市の関係につきましては、今月の27日に医療対策協議会という会議を設けまして、その中でコロナウイルスの関係につきましても議題とさせていただく。これには、市、医療関係、警察等関係機関が全部入りますので、その中でこういったコロナウイルスの関係につきましても議論させていただくこととなっております。今のところ具体的に市として今すぐどうするといったものはないですけど。

○市民

27日では遅いんでない。そういう覚悟でいるとゆうことであればいいですけど。

○市民

昭和43年に5,965㎡で、この時には職員は何人いましたか。その中で十分やれ

るということで建てたと思うんですが、資料を見ると、ボイラーだとかは結構ですけど、狭い空間で大変だということを書いてある。その中で新庁舎はどうかというと、1,000㎡くらい少なくなる、現状の職員ということで考えていると思うんですけど、ほんとこれでやっていけるのか。今後の職員数を見極めて、どのくらいで考えているのか。

#### ●危機対策課長

先ず、昭和45年の供用開始時の職員数は304人となっております。そのほかに将来的な職員数を見越したというところですが、確かに職員数が減ってくるということが考えられます。この構想の中では、今年の1月現在のということで記載させてもらっております。これが事実上Maxということになると思っております。先ほど説明の中で福祉センターの横に建てるということで、空いているスペースなどを活用しながらという話をさせていただきました。この後に、21ページにあります。今基本構想の段階です。この後に基本計画、基本設計に移っていく段階で、不要なものはないかということで、まだまだ落としていく作業が入っていく形になります。今のところどのくらい減るかということはまだお話できませんが、そのように考えていることをお伝えします。

それから、今の新しい庁舎の中には、現庁舎には3階に大きな会議室があるんですけど、それは作らないです。福祉センターにあるホールを利用するというので考えております。

#### ○市民

駅前の整備、よくなった。駅の中に石油ストーブがついていて大変暖かくて助かりました。交通センターとしての面目躍如というような印象を受けました。ただ、コインロッカーがない。昔、観光協会にいたときにも話をしたと思うが、お金がかからないんですよ。大きいのを下に一口、上に小さいのを二口2列おけば、入った収入の半分は市の収入になると思うんですよ。置いたらその分お金が入ると思うので、ロッカーがあれば助かるのではないかと。

もう一つは体育館にトレーニングの機械が入りました。温泉の機械は若い方しか使えないんですよ。いい機械が入ったなと。毎日160円払うが、その数倍の効果が得られると、いい機械が入ったなと思いました。

それから、芦別温泉について、私は芦別温泉のファンでありまして、純粋に大きな風呂に入るのはあずましい。あずましいは癒しなんですよね、ストレスがなくなるということなんです。健康が保てるということなので、なぜ3月でやめるということですから、逆転するということはないと思いつつ、質問するんですが、最大の原因は赤字ですよ。その赤字の額を教えてください。

#### ●総務部長

駅舎へのコインロッカーについてですが、私も勉強不足で申し訳なかったんですけど、設置をすることによって、利用者の方の収入の半分が入ってくるという話が今あったんですけど、その辺についても調べてみたいと思います。また、これまで、今日ご質問で、こういう話を伺うまで、大変申し訳ございませんが、コインロッカーの話については、初めて伺ったというのが現状でございます。どのくらいの需要があるのかということもありますし、どういったところに置いてもらえるのか、そういったことにつきまして、お時間をいただき研究させていただきたいなと思います。

トレーニング機器につきましては、1日160円の中であれだけの機器を使ってトレーニングができるということは、実際に負担する以上の効果が得られるというお話をいただきました。ありがとうございます。これからも多くの方にPRしていただき、せっかく入れた機械ですので、たくさんの方に使っていただければと思います。

温泉の赤字の額というお話をいただきました。勉強不足で申し訳ないんですけど、赤字の額というのは、指定管理者に一定の部分をお任せしていますので、私共のほうで年間どのくらいの赤字が出ているのか、押さえてはいないところがございます。今、赤字だから休止をするという趣旨で、ご質問をいただいたところですが、赤字があるからこの部分がすべてということではなく、普段ご利用されているので、施設のほうがかかり傷んできているというのは御認識いただけるかと思います。今年度、星遊館をリニューアルいたしまして、今まで二つあるものを一つにまとめまして、これは行財政改革の一環でもあるんですけど、縮充という観点から一つにすることで、星遊館をご利用していただければといったことが、その赤字うんぬんよりも施設を廃止して、二つの物を一つにする大きな理由となっているところがございます。赤字については申し訳ございません、把握していないところがございます。

#### ○市民

最後納得して帰りたいので、35億円の庁舎、これは覚悟としてこれから私たちが税金で払っていきたいと思っているんですけど、25年間、大体1人どれくらいの負担になるんですか。いろいろな資料を見て、しっかりとした資料を作っていると思うんですけど、1人大体どれくらいの負担を覚悟して、これから芦別市に住まなければならないのかということが明確になると、この25年間どういう風に過ごせばいいのかということで、納得いくのかなと思う。今月の広報で2020から2040年には6千5百人と、まちがどんどん衰退していくような、またこれも残念な数値が出ているんですけど、今ここで私がここで聞いた1人当たり今の段階でどれくらいを覚悟しなければならないのかということも、20年後に6千5百人になった時に、さらに負担になっているんでないかなという懸念があるんですけどね。そこでまた、さらに高い税金が要求されるのではないのか。最終的に芦別に住むかどうかの判断をしていかななくてはならないと思うので、そういった覚悟も含め、また、まちの発展をいろいろと考えながらということも含め、私たちはどれだけの覚悟で、庁舎だとかこれからのまちを受け入れていかななくてはならないのかということ、わかる範囲で構わないので、説明していただければと思う。

#### ●危機対策課長

人口を仮置きで、今年度の1万3413人としてなんですけれど、一人当たり約28万円という金額になります。将来的に6500人という話も出ています。そういったところもしっかり考えながら整備のほうを少しでも安くできるようにしようと考えております。

#### ●総務部長

今、起債の償還の関係でご質問いただいたところがございます。1人頭28万円と申し上げたわけでございます。人口が減っていくと1人頭の負担額が当然増えていくことになります。ここでこういう話をさせていただくことがいいのかどうかということはあるんですけど、芦別市はカナディアンワールド、株式会社星の降る里芦別が経営破たんした際に、金融合意ということで、毎年1億7千万円ほどを令和8年まで払い続けていかななくてはならない現状にある。庁舎建設のスケジュールで行きますと元金の償還が始まるのが令和9年となつてまいりますので、支払いをしているカナディアンの償還が終わった後、その分を庁舎の建設に係る起債の償還に充てる。このやり方が正しいかどうかというのはいろいろとご議論があるかと思いますけど、そういった形での財源もあるんだということも、ご理解いただきたいなと思います。

庁舎建設に係る起債の償還額というのは、毎年だいたい1億2千万円から1億4千万円で、25年間返済をしていくということになりますので、単純比較では、1億7千万

円が1億4千万円になるといったことになります。これが正しいことかどうかということとはこれからの問題になると思います。

○市民

これから人口がどんどん減って行って、税収も減っていくという中で、病院も一般会計からの繰入金減らしたりだとか、スキー場だとかいろいろな施設が閉鎖したりだとかというような状況の中で、本当に35億円を払っていいのかということが、市民としては疑問でしかないのかなと思う。そこら辺を踏まえたビジョンというのを細かくご説明いただけたらなと思います。

●総務部長

借入金の償還に関するご心配の御質問をいただいたわけですが、もっともなご心配だなどの認識をさせていただきます。市といたしましてもこの総合庁舎、先ほども説明をいたしましたけれど、耐震基準を満たしていないということで、どこかの段階で何らかの方法で整備をしていかななくてはならない。この整備にあたって、今、様々な方法、例えば、耐震補強、建替え、他の公共施設への入居、そんな形で検討させていただいた結果、建替えが一番合理的な方法であろうということで、結論を今出そうとしているところでございます。

この建替えの整備を行うにあたって、先ほどもご説明させていただきましたけれども、平成3年3月末までに実施設計に着手することによって、国の財政支援措置、7億円ほどなんですけれど受けられる、なんとかそれに乗っかって整備できるように進めていきたいという思いで、今回この素案を作成し、説明会を開催させていただいているところです。この7億いくら以外の部分について市が払っていかなくてはならない部分になります。これにつきましては、いま行財政改革というのを進めているところでございます。いろいろなところで市民の皆様にも、負担をかけているという部分も確かにございます。ただそうする中で何とか財源というものを捻出して、起債の償還に充てていく。そういった覚悟で今進めていっているところでございますので、何とかご理解を賜りたいなと思っております。ご回答になっていないかもしれませんが、そういった思い出ているということをお伝えさせていただきたいと思っております。

○市民

一般の企業ですと財源がないから、新しい機械を買うから、これから投資をしなければならぬからとなると、それを含めた合理化を実際やるんですね。でも、財政を基に経営をしているような感じで、一つの会社として考えると、財源を増やそうとしている気がなかなか見えないんですね。今、残さなければならぬものを、財源が縮小するということで、それを潰していくから、そこに充てたお金をそこに使っているだけのような気がする。もうちょっと町の財産を生かしたまちづくりというのを真剣に考えてくれないと、スポーツのまちと言っているところから、スキー場が無くなり、観光資源が無くなり、あそこにもどれだけの外国人が来て、市外の方が来て、どうしているのかということも含めて、本気で考えているのかなと、今の話を聞いて思った。市庁舎を建てなくてはならないという覚悟については、これはあるべきことでこれはしょうがないと思っています。だから僕らこれから背負わなければならないのかと行って、覚悟を含めて先ほど聞いたんですけれども、そこに充てるお金を、他を削ってということで賄ってるのであれば、それは、まちの人間がどれだけ我慢しなければならないのか。まちの人間が、もうちょっとこのまちに住んでいてよかったというまち作りが、ここからは消されているような気がする。冬場どこ行っても遊び場がなく、スキー場にしか来ないような人たちが、健康づくりとしてそういうものに対応している。健康都市宣言を宣言しているまちとしては、逆行しているのかなと思う。たまたま私は



スキーをやっているのです、そういうことに気づくということもありますので、何かそういう我慢をし続けて、ただまちが残っているということだけは、活性化がなくなって、毎年これから税金を納める方々がどんどん離れていく。6400という数が簡単にここに出ている、これで本当に危機感があるのかなと思う。すごい立派な資料が今までも作られてきているんですけど、まちづくり、企業誘致、人口流出防止、ただそこには責任感がないような気がする。これが出来なかったらどうなるのかと。普通の会社ならこの計画が失敗に終わったら、是正措置を取らせるだとか、罰金だとか減俸だとかという話につながるんですけど、そういう危機感があるのかな。そこが本当に、このまちを作っていただくために市役所で働いている方には訴えたいなと思う。

●副市長

貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。まさに100年に一回あるかないかという一大プロジェクトであると思っています。なお、老朽化しているこの施設につきましては、日々使っているものですから、当然その維持管理費が掛かっています。老朽化していることから、暖房効率その他も含めまして、相当経費が掛かっていることから、コンパクトな庁舎を建てることによって、その年間経費が浮いてくるということが一つあります。それからもう一つ、人口が減少するという事は、当然行政もスリム化を図らなければならないと思っています。先ほど職員の数が大幅に減っている300人を200人にして、それだけではなくて、さらに減員計画というものも私たちは持っています。最小の経費で最大の効果を生み出すのが行政の役割ですから、当然市の職員も少数精鋭で、皆様方にしっかりしたサービスを提供するということが一つありますので、これが将来的なその財源を確保する一つの道だと思っています。また、経済を活性化するという点では、来年令和2年度が総合計画の初年度であり、また、総合戦略、まち、ひと、しごと創生の第二期の初年度であります。ここにおいてしっかり皆様方の雇用の場を確保するとともに、製造業だけでなく、それぞれ福祉産業を含めた様々な産業を、芦別市においてしっかり確保しながら、皆様方が終の棲家として、この芦別市に住み続けていただけるような対応策を図ってまいりたいと思っています。

今回この庁舎の建設にあたりましては、基本構想ということで、まずは建て替えを第一に、また、その概要の概要についてお示しをさせていただきました。今回各地域においても様々な意見をいただいておりますので、それらの意見を踏まえて、次は基本計画を皆様方にお示しをしながら、再度確認をいただきながら、進めていきたいと考えております。その時に、今ほどご指摘をいただきました、将来負担、私共が覚悟をもってお示しをするこの計画について、さらに理解を深めていただくようなそんな努力をこれからさせていただきたいと思っています。

○荻原市長あいさつ

最後まで熱心にお聴き取りいただき、ありがとうございます。いまさまざまなご質問やご提言、貴重なご質問を含めていただきました。特に庁舎関係等については、将来の負担について、だいぶ懸念をされていたのかなと思っていますところでございます。基本的にはこのベースになっておりますのは、先ほどから説明をさせていただいておりますけれど、国の助成制度というのが令和2年度、これは実施設計に契約段階でも良しとするものであります。これは当初平成29年度から令和2年度の4年間の時限なんですけど、もともと工事が終了しなければ認めませんというものでした。ところが、芦別市と同じような自治体が結構あって、ちょうどそれくらいの更新があるときに、なかなかそのタイミングでは折り合いが整わないということで、北海道市長会を含めて延長を要請した経過がございます。結果的には、そういう声を総務省サイドも受け止められたうえにおいて、工事は若干猶予して、実施設計ならOKだとかこういうような弾力的な形に

なっただけです。それでも令和2年度というのは、来年の3月いっぱいまでの話ですから、私共と同じような自治体も少なくないわけでありまして、なお一層新しい制度なり延長なりそういった角度でぜひ検討いただきたいということ、根強くやっておりますが、先般、単独で総務省に担当の課長なり局長なりお話をしてみましたが、結局ですね、今こうして4年間実施している、それに間に合わせようとしている自治体があるのに、それを延長するなんてことは、なかなか納得が得られない。ぜひ芦別さんもこの期間において、最大限の努力をしてほしい。こんなようなことが言われております。全体経費の2割程度でありますけれど、それとて単独で7億という数字をどう捻出をするのかということは至難なことではありません。逆にそういう制度がありながら、これに乗らずして放置をしておくということは、行政の不作为でありますから、私の意思は精一杯それに向かって努力をするというのは、私のミッションだと思っていますので、その作業もそういう前提としてあるということもご理解賜りたいと思います。

それと先ほどご指摘をいただきました、スキー場も含めて将来展望が非常に薄いというふうなお話をいただきました。冬の遊び場がないというご指摘等を含めて、子供たちがスキー場を愛しているということは、私も十分承知しているところでございます。そして子供たちのスキー学習ですね。近隣もスキー場を閉鎖しておりますから、近隣の学校の子供たちも芦別のスキー場に来られている。基本的にはこの3月をもって、私共は直営的な部分は切り離しをさせていただきますけど、しかし、事業継承をやっていただけのような形で、指定管理者を募集しようとしており、水面下で動いております。北海道とも通じ合わせながら。何とかそういう形の中でつないでいただくということについて、その辺の橋渡しをしっかりと、そのことによってそういった個々の対応が図れると思っております。私も3年前に市長に就任させていただいたおりに、このスキー場の廃止という議論がありました。これもそういった形で受け継いだときには、これはやっぱりそうはならないねというお話をずいぶんいただき、判断をさせていただきました。3年間です。3年間で緩やかにそういう方向付けをさせていただこう話になりました。しかし、当時もケーブルが非常に、老朽化度が増してきて、危険性が高まっておりました。そういう不良の状態でも運転するわけにはいきませんから、それを取り換えさせていただきました。1千数百万円掛かりました。逆に言えばそれだけ投資したのだから、なお継続しなさいというご意見もあります。でもそれは基本的には3年というルールはお約束ごとなので、議会の皆様方と。そういったこともありますので、そういう方法を持ち合わせながら、ぜひ継続ができるような形につなげていく努力を、一層していきたいということでもあります。

そこで、一つの例を出していただきました。20年後に6500人という数字が出ております。かつて7万5千人まで伸びました。産業の成長とともにあったわけですが、逆にフィードバックした状況にあります。基本的には、私は人口の減少は臆することはないと思っています。人口の減少を分析すると、自然減と社会減がありますよね。自然減というのは出生と死亡の差です。大体これは200人前後、社会減も大体200人前後、だいたい400人から350人程度の間で毎年減少している。社会減少をいかに止めるかということが、非常に大きな必要なことだと思っています。これはやはりいかにして住んでいただく、雇用として関わっていただくことによって、人口の減少に幾何とも歯止めをかけていくということが大事であると思っています。

先ほど副市長から申し上げましたけれど、4月から第6次の総合計画がスタートいたします。私は特に人口減少対策というものを重視しております。特に各産業の振興と合わせまして雇用の確保。それから、医療と福祉加えて教育と子供子育て支援、ここにしっかりと手を打っていくということが大事だと思っています。したがってそういう集

中投資をしながらも、やはり人口減少の抑制を図っていく必要性が高いなと思っています。それらを含めまして、しっかり対応を図っていくということを申し上げさせていただき次第でございます。

病院も基本的には、答申をいただきまして、方針を固めようと思っております。その方針の考え方につきましても、3月5日に3月議会が招集されますので、それまでには市の方針も固めまして、今後の病院のあり方についてしっかりお示しをしたいと思っております。基本的にはもちろん議会の皆様方にお示しをし、市民の皆様方にお伝えする、そういう運びも考えておりますので、そのようなところについても是非お含みいただきたいなと思っている次第でございます。

総じまして、私も行政運営をする上において責任感がないわけではなく、責任感を持ち合わせながら覚悟をもって行政運営をしております。市民の安全安心、市民の健康命を守ることなくして行政は成り立ちません。そういう思いなので、精一杯努力していくつもりであります。従いましていろいろご批判をいただいて結構でありますし、色んな意味で共々まちづくりをしていくという視点に立ちまして、これからもどんどん発信をしていただいて、共に、まちというのはお互いに作り上げていくものだと思っておりますので、率直な意見交換をさせていただきながら、正に自助、共助、公助の公助ですよね。関係をしっかりと作り上げながら、関わっていただけたら大変ありがたいなと思っております。情報の共有と共同参画というところがポイントになってくると思います。

結びになります。ぜひ今後とも皆様とスクラムを組ませていただいて、このまちが、地域が一步でも前進できるように、市職員も一丸となって頑張るつもりでありますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお願いする次第でございます。

ここ数日が、暖かい日が続いております。記録的な温かさでございまして、日曜日以降またぐっと気温が下がるそうです。そんなことでは是非ご体調管理にはご留意いただきたいと思っております。最後に皆様のご健勝を心からご祈念申し上げまして閉会の言葉とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

## 5 閉会

以 上